研究パネル

日本語発話の鼻音性の定量的評価 ― ナゾメータを用いて ―

武内　和弘　　小澤　由嗣

県立広島大学保健福祉学部コミュニケーション障害学科

抄　録

発話における鼻音性の程度を定量的に評価する方法の１つとして，ナゾメータによる検査法がある。本研究では，青年期の中国地方の方言話者（10 ～ 27 名）における日本語単音節と短文発音時の鼻音化率（平均 Nasalance 値）について，それぞれの平均および標準偏差を求めた。その結果，母音の平均 Nasalance 値は，イが最も高く，アが続き，オが常に低かった。エはイより低く，ウは一定しなかった。また，調音に高い口腔内圧を必要とする子音（p, t, k, s, ts 等の破裂音，摩擦音，破擦音）を多く含む文の平均 Nasalance 値は，そうでない文より低かった。さらに，発話の鼻音化率は，女性が男性より高く，中国地方方言話者の方が関西方言話者より高かった。以上の，検索結果を元に，青年期を対象とする日本語発話の鼻音性評価法試案を作成した。